

令和元年6月26日現在

機関番号：23302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11715

研究課題名(和文) 子ども虐待予防の段階的支援システムの研究：虐待リスクをもつ乳児の母が集う場の評価

研究課題名(英文) A phased support system for child abuse prevention: An Evaluation of Group Meetings on Parenting for Mothers of Infant Experiencing anxiety and difficulty with childcare

研究代表者

西村 真実子 (Nisimura, Mamiko)

石川県立看護大学・看護学部・教授

研究者番号：50135092

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：育児不安や困難を持つ乳児の母親に対するグループ支援の効果を、母親の心理的状態の改善からみた。週1回2時間、10名程度の母親が集まり、安心して悩みを共有し、タイムリーに疑問が解消されるよう、また子育てスキルのモデル学習や実際にやりながら習得できるよう助産師が支援する。乳児家庭全戸訪問で、事前作成した、育児困難や虐待のリスク項目に該当する母親をグループに誘った。

参加した母親はグループを安心でき自分らしくいられる場として認識していたこと、8回以上参加している母親に育児困難が要支援や要治療のランクの者、うつ傾向が強い者が多かったこと、4回以下の短期参加者のうつ傾向が改善を示すことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもの虐待の予防にむけて、育児への不安や困難を持つ乳児の母親を対象としたグループミーティングと育児スキル習得の支援を行い、その効果を検討した。参加した母親のほとんどがグループを安心でき自分らしくいられる場であると感じていた。8回以上長期に参加している母親はうつ傾向が強く、育児困難が「要支援」「要治療」段階の者が多かった。4回以下の短期参加の母親はうつが改善する傾向があった。乳児早期から個別支援に加え、グループ支援も行っていく必要がある。

研究成果の概要(英文)：The study aimed to investigate whether the parenting group meetings for mothers with infant experiencing challenges with childcare or child maltreatment is effective in improving mothers' psychosocial well-being. At a home visit to a family with an infant, public health nurses invited a mother to the group based on risk factors for childcare difficulties or abuse.

About 10 mothers gather once a week for 2 hours, share their concerns at ease, and help them resolve questions in a timely. In addition, the midwife supports model learning of child care skills.

The mother who participated had recognized the group as a place where they could feel safe and be their own. In addition, many mothers who participated in the group more than 8 times had a strong depression tendency, and childcare difficulties were in the stage of "support required" and "care required". Mothers who participated four times or less tended to improve depression.

研究分野：小児看護学

キーワード：子育て 母親 不安 困難 虐待 乳児 予防

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

育児困難や虐待の予防には、虐待に至る前に気になる状況やリスクに気づき、継続的に支援していくことが重要である。現在の母子保健システムにおける出産から乳児期にかけての支援は、2週間健診、1か月健診、生後4か月までに行われる「乳児家庭全戸訪問」およびその後の「養育支援訪問事業」等、主に個別支援が行われている。これを補うのが本研究の「気になる子育て状況の乳児の母が集う場」でのグループ支援である。乳児家庭全戸訪問において、事前作成の「気になる母または子育て状況」項目に該当する者(育児不安や困難をもつ母親)にグループへの参加を推奨している。テーマを決めてのフリートークも行う。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、育児不安や困難を持つ母親の上記のようなグループ支援の効果を、母親の心理的状態(育児不安、うつ傾向、安心感や共有感覚もが持てる等のグループに対する居場所機能)の改善から明らかにすることである。

### 3. 研究の方法

対象者：集いの場に参加した乳児の母親

手順：集いの場の参加時に、調査の目的、概要、倫理的配慮等を説明し、集いの場初回または2,3回参加時点と、8回以上参加した時点の2時点で質問紙調査を依頼した。

調査内容：1) 居場所条件尺度(山岡;2003)

2) エジンバラうつスケール

3) 総研式子育て支援尺度(0~11か月児用)の「育児困難」下位尺度

4) 属性・サポート等の外生変数

5) 参加後の感想(自由記載)

分析Ⅰ：「2,3回参加(早期時点の者)」と「8回以上参加(長期参加時点の者)」の各尺度

得点を比較し、対応のないt検定または $\chi^2$ 検定を用いて分析した。

分析Ⅱ：「4回以下の参加者(短期参加者)」と「8回以上参加した者(長期参加者)」の各尺度得点を比較した。

### 4. 研究成果

(1)分析Ⅰ：2,3回参加(早期時点の者)と8回以上参加(長期参加時点の者)の心理状態の比較

I-1 対象者の背景(Table1)

	<b>Early Attendance (n = 25)</b>		<b>Long-Term Attendance (n = 14)</b>		
<b>Age</b>	<b>31.3 ± 4.8 (23-40)</b>		<b>31.3 ± 4.1 (27-41)</b>		
<b>Housewife</b>	<b>16</b>	<b>64.0 %</b>	<b>5</b>	<b>35.7 %</b>	
<b>Not housewife</b>	<b>9</b>	<b>36.0</b>	<b>9</b>	<b>64.3</b>	
<b>Children</b>	<b>One</b>	<b>21</b>	<b>84.0 %</b>	<b>13</b>	<b>92.9 %</b>
	<b>Two</b>	<b>4</b>	<b>16.0</b>	<b>1</b>	<b>7.1</b>
<b>Nuclear Family</b>	<b>22</b>	<b>88.0 %</b>	<b>14</b>	<b>100 %</b>	
<b>Extended Family</b>	<b>3</b>	<b>12.0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
				<b>Mean(Standard Deviation)</b>	

2,3回参加時点の母は25名(平均年齢31.3±4.8歳、子一人84.0%、核家族88.0%)、8回以上参加の母は14名(平均年齢31.3±4.1歳、子一人92.9%、核家族100%)で、両時点の母の属性に有意な差はなかった。

I-2 居場所機能尺度得点の比較(Table2)

Subscale	Early Attendance (first or second meeting)	n	Long-Term Attendance (8 times meeting or more)	n	t	Result of previous studies(Yamaoka, 2000)
<b>Essential Trust</b>	<b>34.5 (26.92)</b>	<b>25</b>	<b>37.5 (2.74)</b>	<b>14</b>	<b>*</b>	<b>40.14 (7.57)</b>
Sharing something	16 (14.58)	25	18.2 (2.52)	14		17.94 (3.91)
<b>Sense of Acceptance</b>	<b>16.6 (6.67)</b>	<b>25</b>	<b>18.9 (2.48)</b>	<b>14</b>	<b>*</b>	<b>20.84 (3.19)</b>
Safe and Freewill	17.8 (6.19)	25	17.5 (1.45)	13		16.27 (3.26)
<b>Clinging to a place</b>	<b>13.2 (9.77)</b>	<b>25</b>	<b>14.7 (3.47)</b>	<b>14</b>		<b>11.52 (3.71)</b>
				<b>* P &lt; 0.05 nonpaired t-test</b>		<b>Mean(Standard Deviation)</b>

8回以上の長期参加の母親は、2,3回時点の母親に比べて居場所機能「基本的信頼感」および「受容される感覚」の得点が有意に高く(基本的信頼感:2,3回時点 34.5±2.7点、9回以上 37.5±2.7点、受容される感覚:2,3回時点 16.6点±6.7点、8回以上 18.9±2.5点)、集いの場を自己価値が確認できるような信頼関係をもてる場、受容的な雰囲気の中であるがままの自分でいられる場であると感じている者が多いことがわかった。

I-3 エジンバラうつスケール得点の比較(Figure1, 2)

うつ EPDS 得点のカットオフポイント 9 点以上の母親は、2,3 回参加時点では 56.0%、8 回以上では 71.4%で、8 回以上参加者の方に多かったが、両時点間に有意な差はなかった。

I-4 総研式子育て支援尺度「育児困難」下位尺度得点の比較

育児困難は、2,3 回参加時点の母親の 50.0%が要治療ランク(ランク 5)、37.5%が要支援ランク(ランク 4)、正常ランク(ランク 1~3)12.5%で、9 回以上参加になると要治療 35.8%、要支援 50.0%、正常 14.2%で、8 回以上の母の方が育児不安が低かったが、両時点間に有意な差はなかった。

(2)分析Ⅱ:4 回以下の参加者(短期参加者)と 8 回以上参加した者(長期参加者)の心理状態の比較

Ⅱ-1 対象者の背景(Table1)

	Early Attendance (n=13)	Long term Attendance (n=8)
<b>Age</b>	<b>30.3±2.4(28-37)</b>	<b>31.5±5.1(24-40)</b>
<b>Housewife</b>	<b>8 61.5 %</b>	<b>4 35.7 %</b>
<b>not housewife</b>	<b>5 38.5</b>	<b>4 64.3</b>
<b>Children one</b>	<b>13 100.0 %</b>	<b>7 87.5 %</b>
<b>tow</b>	<b>0 0.0</b>	<b>1 12.5</b>
<b>Nuclear Family</b>	<b>13 100.0 %</b>	<b>7 87.5 %</b>
<b>Extended Family</b>	<b>0 0.0</b>	<b>1 12.5</b>
<b>Mean(Standard Deviation)</b>		

短期参加者の 61.5%、長期参加者の 35.7%が主婦であり、短期参加者に主婦が多かった。

Ⅱ-2 エジンバラうつスケール得点の比較(Figure1, 2, Table1)

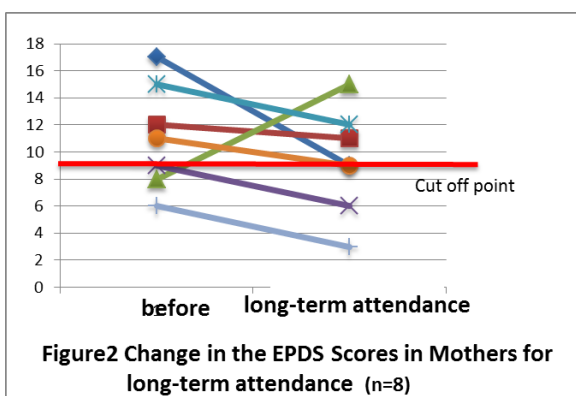
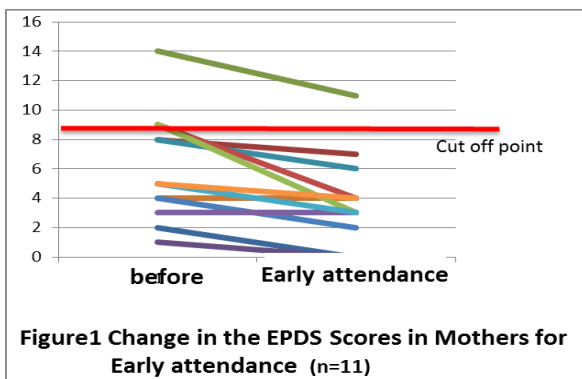
うつ EPDS 得点は、短期参加者全員と 2 名を除く長期参加者においてグループ参加前後で低下していた。低下していなかった 2 名は妊娠と新たな仕事を始めており、これらによる負担が関係している可能性がある。

また、短期参加の母親は 1 名の除きカットオフポイント 9 点以下であったが、長期参加の母親は 2 名以外は 9 点以上であった。

**Tabl 2. Individual changes in the scores of 2 scales in mothers with early attendance and them with long-term attendance**

Subjects	EPDS <small>Cut off point 9 or more</small>	Childcare Difficulties <small>Link 1-3:normal 4:need to support 5:need to treatment</small>	Material Support	Emotional Support	Life Events	
Long-term Attendance	A	17→9 ○	4→4	parcially help	husband, mother	
	B	12→11 △	4→4	No help	husband, mother	
	C	8→15 ×	4→5 ×	always help	husband, mother	pregnacy
	D	9→6 ○	3→4 ×	No help	husband, mother	
	E	15→12 ○	4→5 ×	always help	husband, mother	
	F	11→9 ○	5→4 ○	No help	husband	
	G	6→13 ×	4→4	parcially help	friend	getting a job
Early Attendance	H	2→0 ○	5→5	always help	husband, mother	
	I	4→	4→	No help	husband, mother	
	J	8→7 ○	4→4	No help	husband, mother	nobody to talk to
	K	14→11 ○	5→5	parcially help	mother	retirement, move, quarre
	L	1→0 ○	3→3	parcially help	mother	
	M	8→6 ○	4→3 ○	No help	husband	retirement
	N	4→4	4→4	No help	mother	
	O	15→	5→	parcially help	husband	retirement, move, quarre
	P	4→2 ○	4→4	always help	professional	
	Q	9→4 ○	4→4	parcially help	no noe to help	
	R	9→3 ○	5→4 ○	always help	husband, mother	
	S	3→3	4→4	always help	husband, mother	retirement, quarrel
	T	5→3 △	4→4	always help	husband, mother	
	U	5→4 △	4→4	always help		retirement

○ : mprovement    △ : Slight improvement    × : Worsening



II-3 総研式子育て支援尺度「育児困難」  
下位尺度得点の比較

短期参加者 1 名と長期参加者 1 名以外は全員が、育児困難の要支援ランクまたは要治療ランクであった。

また、短期参加者は 13 名のうち 2 名が改善、11 名が不変であるのに対して、長期参加者は 7 名のうち 1 名が改善、不変 3 名、悪化 3 名であった。

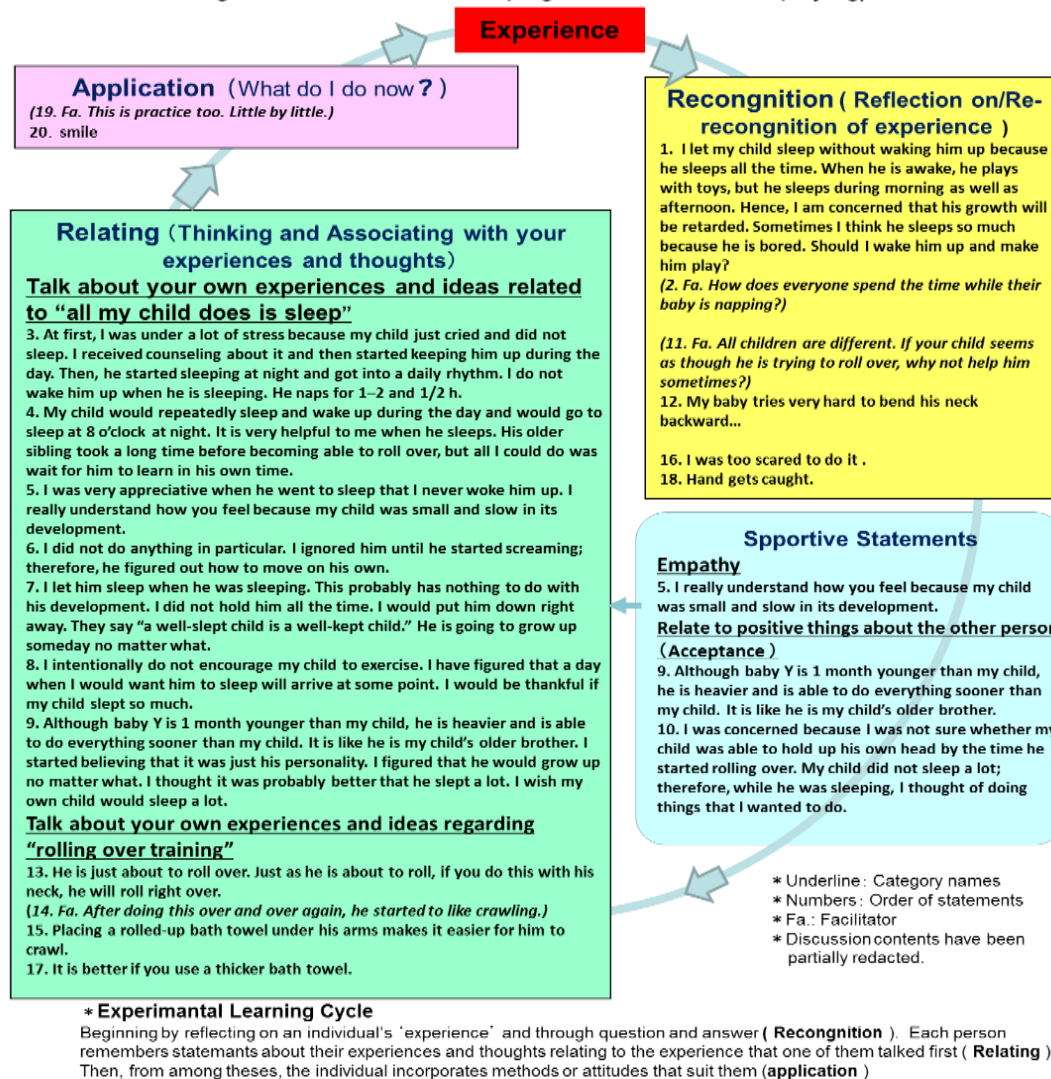
(3) グループ参加後の自由記載の感想の結果

90%以上の母親が、「安心できる」「子育てに関する新しい知識やスキルを得ることができる」「子どもとかかわるのに役立った(自分がリラックスするのが大事だと気づいた等)」等の前向きな感想を」記載していた。

#### (4) グループミーティングの内容(Figure3)

グループミーティングにおける話し合いの内容を、「Nobody's Perfect 親支援プログラム」の「体験学習サイクル」の考え方を参考にしてまとめたものを図3に示した。

**Figure 3. Discussion of the Meeting of Child Rearing: Using the 'Experimental Learning Cycle' framework (Theme: Concerns pertaining to a child's growth being retarded because of sleeping all the time and not playing)**



#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計4件)

- ①西村真実子, 米田昌代, 金谷雅代, 曾山小織, 千原裕香, 坂本洋子, 伊達岡五月, 永井章子, 塚脇京子, 柏木栄子, 加藤和子: 育児不安や困難をもつ乳児の母親が集う場「めばえ」の効果(第1報)、第26回石川県小児保健協会プログラム・講演集、4、2015
- ②西村真実子, 米田昌代, 金谷雅代, 曾山小織, 千原裕香, 伊達岡五月, 永井章子, 塚脇京子, 柏木栄子, 加藤和子: 育児不安や困難をもつ乳児の母親が集う場「めばえ」の効果(第2報)、FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会 第18回全国学術集会弘前大会講演集、42、2015
- ③Nishimura M., Kanaya M., Yoneda M., Soyama S., Chihara Y., Hombu Y., Dateoka S.: Evaluation of Group Meetings on Parenting by Mothers of Infant Experienceing Childcare Difficult, Program Book of 15th. World Congress of the World Association for Infant Mental Health, 95, 2016
- ④ M. Nishimura, M. Kanaya, M. Yoneda, C. Yuka, S. Soyama., Dateoka S.: Evaluation of Group Meetings on Parenting for Mothers of Infant Experiencing anxiety and difficulty with childcare Second Report, Program Book of 12<sup>th</sup>. International Congress on the Prevention of Child Abuse and Neglect, 2018

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等 なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：金谷 雅代

ローマ字氏名：Kanaya Masayo

所属研究機関名：石川県立看護大学

部局名：看護学部

職名：講師

研究者番号（8桁）：80457887

研究分担者氏名：千原 裕香

ローマ字氏名：Chihara Yuka

所属研究機関名：石川県立看護大学

部局名：看護学部

職名：助教

研究者番号（8桁）：50738408

研究分担者氏名：米田 昌代

ローマ字氏名：Yoneda Masayo

所属研究機関名：石川県立看護大学

部局名：看護学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：80326082

研究分担者氏名：曾山 小織

ローマ字氏名：Soyama Saori

所属研究機関名：石川県立看護大学

部局名：看護学部

職名：講師

研究者番号（8桁）：10405061

### (2) 研究協力者 なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。